【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成17年5月19日(2005.5.19)

【公開番号】特開2002-188310(P2002-188310A)
【公開日】平成14年7月5日(2002.7.5)
【出願番号】特願2000-386754(P2000-386754)
【国際特許分類第７版】
　Ｅ０４Ｈ　6/04
　Ｂ６２Ｈ　3/04
【ＦＩ】
　Ｅ０４Ｈ　6/04　　Ｈ
　Ｂ６２Ｈ　3/04

【手続補正書】
【提出日】平成16年7月13日(2004.7.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　自転車の平面から見た中心線に対して直交して互いに平行に配置される第１支持梁及び第２支持梁と、これらの支持梁に対して移動可能に組付けた前後一対で複数組の移動台と、これら前後一対の移動台と一体化されて、前記自転車の前後の車輪を支承し得る程度の幅と長さを有した複数の載置台と、これら各載置台に基端にて開閉自在に連結されて、その開閉角度が３０°～８０°の範囲内に規定された第１クランクバーと、これら各第１クランクバーの互いに隣接するもの同士の先端を開閉可能に連結して構成したことを特徴とする複数自転車の置台。
【請求項２】
　自転車の平面から見た中心線に対して直交して互いに平行に配置される第１支持梁及び第２支持梁と、これらの支持梁に対して移動可能に組付けた前後一対で複数組の移動台と、これら前後一対の移動台と一体化されて、前記自転車の前後の車輪を支承し得る程度の幅と長さを有した複数の載置台と、これら載置台に基端にて開閉自在に連結されるとともに、互いに隣接するもの同士の先端が開閉可能に連結される第１クランクバーと、これら各第１クランクバーに先端が、また前記載置台上に移動自在に組付けた連結台に基端が連結される第２クランクバーとを備えて、
　前記連結台の前記載置台に対する移動を行うことにより、前記第１及び第２クランクバーを開閉させて、前記載置台を、前記各支持梁に対して直交方向に移動し得るようにしたことを特徴とする複数自転車の置台。
【請求項３】
　前記各載置台による自転車の前部の支持高さを、互いに隣接するものについて交互に高低となるようにして、前記各自転車のハンドル等が互いに干渉し合わないようにしたことを特徴とする請求項１または請求項２に記載の複数自転車の置台。
【請求項４】
　前記各支持梁を１つの基台上に取付けるとともに、これらの支持梁に前記載置台の４本を組付けて、４台の自転車を載置するものとして、一まとめにしたことを特徴とする請求項１～請求項３のいずれかに記載の複数自転車の置台。
【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
　また、各スタンド間の寸法が固定されているため、入れておいた自転車の隣のスタンドにも自転車が入っていると、これが取出しの邪魔になって、自分の自転車の取出しが非常に困難となっている。このため、各スタンド間を広く開けるようにすることもなされているが、そうすると、今度は限られたスペースに置ける自転車の数が少なくなって、あふれた自転車が自転車置場の周囲に置き放されることにもなっていた。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
　換言すれば、１つの載置台２０が動かされれば、これと隣の載置台２０とを連結し合っている両第１クランクバー３１が、例えば図２の右端に示した山形状から、図示中央に示した山形状に拡開されることになり、その後は、動かされた載置台２０のすぐ隣の載置台２０が両第１クランクバー３１を介して引かれるのである。このことは、各載置台２０が各第１クランクバー３１によって互いに関連し合うように連結されているから、例えば図１４に示した左端の空間を右端にもってくるときに、各載置台２０間に急激な衝突を発生させないことを意味しているのである。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
　さて、上記課題を解決するために、請求項２に係る発明の採った手段は、同様に、
　「自転車２００の平面から見た中心線に対して直交して互いに平行に配置される第１支持梁１１及び第２支持梁１２と、これらの支持梁１１・１２に対して移動可能に組付けた前後一対で複数組の移動台２１～２１と、これら前後一対の移動台２１・２１と一体化されて、自転車２００の前後の車輪２１０・２２０を支承し得る程度の幅と長さを有した複数の載置台２０と、これら載置台２０に基端にて開閉自在に連結されるとともに、互いに隣接するもの同士の先端が開閉可能に連結される第１クランクバー３１と、これら各第１クランクバー３１に先端が、また載置台２０上に移動自在に組付けた連結台３３に基端が連結される第２クランクバー３２とを備えて、
　連結台３３の載置台２０に対する移動を行うことにより、第１及び第２クランクバー３１・３２を開閉させて、載置台２０を、各支持梁１１・１２に対して直交方向に移動し得るようにしたことを特徴とする複数自転車の置台１００」
である。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
　２本の第１クランクバー３１が完全に閉じたり開いたりする場合には、両第１クランクバー３１の第２クランクバー３２及び連結台３３による開閉は何等問題はないが、図４中

の右から２番目の載置台２０については、一方が開き他方が閉じている状態となるため、次のような工夫がしてある。本実施形態の連結台３３においては、図７に示すように、各第２クランクバー３２の基端が連結される部分を同一形状と位置の長穴３３ａとし、一方、各第２クランクバー３２の先端は、そのまま各第１クランクバー３１の略中央に回動可能に連結してある。これにより、図７の左側に示した完全に解放された第１クランクバー３１に連結した第２クランクバー３２の基端は、左側の長穴３３ａの図示下端に係合し、図７の右側に示した完全に閉じられた第１クランクバー３１に連結した第２クランクバー３２の基端は、右側の前端高支柱２２ｂの図示上端に係合している。この図７に示した２本の第１クランクバー３１は、図４中の図示右側から２番目の載置台２０に設けたものに該当するものである。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６５】

また、請求項２に係る自転車置台１００は、上記の第１クランクバー３１の他に、さらにこれらの第１クランクバー３１と各載置台２０とを連結する第２クランクバー３２と、この第２クランクバー３２が連結されて各載置台２０上を移動する連結台３３とを備えたことに主たる特徴があり、これにより、上記請求項１のそれと同様な効果を有する他、各載置台２０の移動を、その後端等に設けた足踏みレバー３６等によって簡単に行えるようにした複数自転車の置台１００を提供することができるのである。